

各位

上場会社名	株式会社 新潟放送
代表者	代表取締役社長 竹石 松次
(コード番号)	9408)
問合せ先責任者	常務取締役経営管理局长 相澤 信介
(TEL)	025-267-4111)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年11月14日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	21,680	440	482	128	21.34
今回発表予想(B)	21,110	420	463	102	17.00
増減額(B-A)	△570	△20	△19	△26	——
増減率(%)	△2.6	△4.5	△3.9	△20.3	——
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	22,359	958	1,030	348	58.04

平成21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	7,375	220	287	115	19.17
今回発表予想(B)	7,288	110	171	66	11.00
増減額(B-A)	△87	△110	△116	△49	——
増減率(%)	△1.2	△50.0	△40.4	△42.6	——
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	7,655	534	591	273	45.61

修正の理由

当社グループが主力事業を展開する放送事業におきましては、景気の後退が一層深刻化する状況下で、ラジオ広告の低迷に歯止めがかからないことに加え、テレビ広告でも広告主企業の収益悪化懸念等による出稿の削減が顕著となったことなどにより、売上高が前年を大きく下回る厳しい状況となっております。

当社放送事業におきましては、売上高は第3四半期(平成20年10月～12月)にはやや回復の兆しを見せたものの、上半期の大幅な減収を補うまでには至らず、さらに第4四半期(平成21年1月～3月)は全国的にテレビ広告市況の冷え込みが強まることが確実視され、特に収益の主柱であるテレビスポット広告は予想以上の落ち込みになると予測されます。

このような状況下で、当社は、積極的な営業活動を行うとともに費用面における一層のコントロールに努めておりますが、テレビデジタル化に伴う減価償却費など固定的な費用増に対し、テレビスポット広告における減収は利益面に大きく影響することから、営業利益、経常利益、当期純利益とも前回修正した予想値を下回る見込みとなりました。

なお、当社グループの情報処理サービス事業、ホテル及び飲食事業、建物サービスその他事業につきましては、それぞれ厳しい経営環境にはあるものの、業績はほぼ想定範囲内に収まるものと思われ、連結業績予想における各段階の損益の修正については、個別(放送事業)の損益を下方修正することが主な要因であります。

以上の理由によりまして、平成20年11月14日付で公表した通期連結業績予想及び平成20年8月7日付で公表した通期個別業績予想を修正いたします。

※上記の予想は本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以上